

5397 渡辺麻子

5629 西尾武文

---

## 目次

### 序論

## 1 概論

- 1, [カウンセリングの歴史](#)
- 2, [マイクロカウンセリングについて](#)
- 3, [治療関係スケールについて](#)

## 2 実験と手続き

- 1, 被験者
- 2, ビデオ録画手順
- 3, 質問紙

## 3 結果と考察

- 1, 評価結果
  1. [ビデオ観察の結果](#)
  2. [ID別に見る評価結果](#)
- 2, [評価結果の考察](#)

## 4 評価の要点

## 5 全体の反省と課題

## 6 [参考文献](#)

## 序論

最近、テレビのドラマを見れば必ずといっていいほど、心理学に関係のある番組に当たる。主人公がカウンセラーであったり、また逆に主人公が、何らかの心の障害があり、それを取り除くために精神科に通うといったものである。それだけ多くの国民が関心を示している証拠である。またニュースを見ていると連日、心理学者がコメントを求められているのをよく見かける。去年の日本だけではなく世界の重大ニュースであった、和歌山カレー事件でもたくさんの精神学者、心理学者が討論していたことは記憶に新しい。特に神戸は、阪神、淡路大震災や須磨で起きた中学生による幼児殺傷事件は、人々の心の中に大きな傷をつくった。とりわけ母親は子育てのあり方を考えさせられた。子供たちがなにを考え、なにを求めているか真剣に考えさせられる事件であった。

その中で神戸市社会福祉協議会、市民福祉大学の主催による、ヒューマンサービスコース中級コースが開催された。ここでは自分自身を客観的に見つけだす「自己覚知」を目標とする初級コースを終えた講習生が、援助者にふさわしいコミュニケーション能力を身につけ、よりよい活動につなげることを目標としている。さらに、他者への共感を育んでいくこと、自分の利益ではなく、よりよい援助をする行為を通じて、よりよい共感をするための技術的なものを身につけていくことをこのコースは目標としている。今、どんなことが必要なのか、感じるか、という認知的、情緒的活動をともし、"人を通じて共感を学ぶ"ことが主題とされている。

中級コースの学習形態として、相談場面の映像を題材に、テレビモニターやビデオカメラを組み合わせた機器（コミュニケーションラボ）を使用する。ビデオを通じて自分自身の会話の傾向、姿勢、身振りなどを客観的に見ることにより学んでいく。その際にマイクロカウンセリング技法に乗っ取って授業を進めてきた。昨年石岡、富岡が、コミュニケーションラボがコミュニケーション技法の修得においてどれだけ効果があるか、ラボを使う初回と最終回でビデオを比較、測定してきた。我々は本研究において、さらにより正確な数値を求めるために、初回、最終回がどちらであるかという情報を与えられることなく、測定することを目的とする。（情報を与えられるとデータに歪みが生じるおそれのあるため）なお、測定する際の尺度は、昨年と同じく共感に関係のある治療関係スケールを使用した。

この研究で石原、富岡の研究がより実証的になったとともに、援助を目的とした治療関係が、援助者の持つ治療的要因を分析使用とする手助けになれば、と思う。

## 【1】 カウンセリングの歴史

カウンセリングは、アメリカ合衆国において、今世紀初頭に科学的・社会的・政治的要因から心理学のひとつの応用分野として誕生した。カウンセリングの源流といえる要因とは、精神病の治療・精神衛生運動・精神測定学を含む実験心理学と個別研究・クライアント中心療法のヒューマニスティックな見解・現存在分析の哲学的基盤・職業指導運動などがあげられる。カウンセリングという言葉が文献上に初めて登場したのは1931年であり、1930年代に出版されたカウンセリングの方法に関する教科書はすべて診断技法を扱ったものだったそうである。この時代は、適切な訓練を受けた精神科医のみが精神療法（心理療法）を行う資格を有するとされていたが、フロイトの精神分析とウィリアムソンのカウンセラー中心主義に挑んでロジャーズが1942年に『カウンセリングと心理療法』を著し、その中で心理療法は医学博士号がなくてもできるという明確な仮説を打ち出したことが契機となって、非医学的かつ非分析的な観点に基づくカウンセリングおよび心理療法が急速に発展した。ロジャーズは、カウンセラーはクライアントの言動を判断したり評価したりしないで、受容することが大切だと強調した。自分の立場を非指示的心理療法と呼び、研究の方向づけにも影響を与えた。ロジャーズ以前の文献は、心理テストの実施・オリエンテーションの手続き・人員配置の機能など職業指導の実践的な側面を扱ったものが多かったが、彼の意見が認められて以降はカウンセリングの方法ないし技法・カウンセリングの技法の精緻化、カウンセリングの目的ないし目的ないし目標など、カウンセリングに関するものが急速に増えた。彼の影響力は1950年代に出版されたカウンセリング心理学の教科書などの内容の変化に反映されている。

アメリカ合衆国において、第2次世界大戦後新たな流れをその内部に組み込まれ、変化し始める。大戦後、負傷兵を含む大勢の退役軍人が個人的ないし職業上の適応問題に直面したことから、退役軍人を対象とする研究を行うカウンセラーや心理学者に給付金や奨学金を与えながら訓練を行ったり、『米国陸軍兵士の権利宣言』を出した結果、退役軍人に新たな教育の機会が与えられ、高等教育に新たなタイプの学生が大勢流出し、職業カウンセラーになるための資格要件に力を入れた。そして、カウンセリング心理士という用語も生まれた。このように、心理的サービスに対する一般大衆の受け入れ姿勢が強まった。1952年には、アメリカ心理学会にカウンセリング部会が正式に設立されるとまもなく、スーパーによってカウンセリング心理学は臨床心理学と明確に区別された。同年、アメリカ職員人事職業指導協会が生まれる。そして、1965年には『カウンセラーのための健全な倫理綱領』を発行し、道60年代に学校カウンセラーのための役割と訓練内容が要約された。1983年にアメリカカウンセリング・発達協会、さらに1992年にはアメリカカウンセリング協会とその名称を改めていった。1960年代から1970年代にかけて、対人関係やコミュニケーションのスキルを学習させるための援助スキルプログラムが開発された。トゥルアックス・カーカフやアイビーなどによるこれらのプログラムにさらされれば、学習内容を他者に教えやすいという特典があるといわれる。1970年代に入って週単位のサイコロジストの免許制度が導入され始めた。

マイクロカウンセリングは、1966年にコロラド州立大学においてカウンセリングとサイコセラピイの過程に潜んだ行動的特性を明確にするということがもちあがった。これを行った

のは、Normington,C.,Miller,D.,Morrill,W.&Hass,R.である。彼らは半年もの間カウンセリングやサイコセラピーが機能するということがどういうことなのかを考えた。そして、将来性のあるカウンセラーを訓練する意味を見出せないまま実行に移した。これが、マイクロカウンセリング研究のはじまりだとされている。また、このマイクロカウンセリングは、アメリカのプラグマティズムのヘーゲル哲学の否定主義の見本として端を発したものである。

## 【2】マイクロカウンセリングについて

### (1) マイクロ技法の階層表

個人スタイルと理論の決定
技法の統合（異なる理論における技法の系列下） <ul style="list-style-type: none"><li>異なる理論は技法仕様の異なるパターンを必要とする。</li><li>異なる事態は技法使用の異なるパターンを必要とする。</li><li>異なる文化のグループは技法仕様の異なるパターンを必要とする。</li></ul>
積極技法と方略（指示、論理的帰結、解釈、自己開示、助言、情報提供、説明、教示、フィードバック、積極的要約）
焦点のあてかた (文化的に、環境的に、脈絡的に) (クライアントに、問題に、他の人に、私たちに、面接者に)
対決と発達の査定
5段階の面接構造（基本的傾聴の連鎖のみを用いての面接の完了及び共感的理解に関するその面接の評価）  面接の5段階 1, ラポート／構造化 2, 問題の定義 3, 目標の定義 4, 選択肢の探索と不一致との対決 5, 日常生活への般化

		意味の反映	基本 的か かわ り技 法
基本 的傾 聴 の連 鎖		感情の反映	
		励まし、言い換え、要約	
		クライアント観察技法	
		開かれた質問と閉ざされた質問	
かかわり行動（文化的、個人的に適した視線の合わせ方、身体言語、声の質、言語的追跡）			

1, かかわり行動とクライアントを観察する技法は、効果的なコミュニケーションの基礎を形成しているが、これは必ずしも訓練のはじめがふさわしい場所であるというわけではない。

2, かかわり技法（開かれた質問と閉ざされた質問、励まし、言い換え、感情の反映、要約）の基本的傾聴の連鎖は、効果的な面接、マネジメント、ソーシャルワーク、内科医の診察時の面接やその他の状況下でたびたび見出される。

マイクロ技法（mikroskills）というのは、面接の時のコミュニケーションの技法の単位である。マイクロ技法の階層表（micro skills hierarchy）は、図のように意図的面接法の連続した階段に要約される。まず、一番底辺にある「かかわり行動」が最初のプログラムとなり一つずつうえの段階にあがり、技法の階層表の順上にある「技法の統合」を習熟する。マイクロ技法の階層表を修得すると、多くの異なる状況下でこれらの技法と概念を用いる準備ができたことになる。

### 1) かかわり行動

かかわり行動には、次の四つの重要な項目が含まれている。

- 1, 視線を合わせること。（ここの文化にあった視線の合わせ方をする。）
- 2, 身体言語に気を配る。（リラックスしたポーズや動作をする。）
- 3, 声の調子（ごく自然な話し方をする。）

#### 4、言語的追跡（カウンセラーの方からは決して話題を飛躍させてはならない。）

### 2) 開かれた質問と閉ざされた質問

#### 1、開かれた質問(Open Question)

はなしての自由な応答を促すような質問で主体的に発言できる。一言では答えられないようなものである。その形態としては、どんな、どのように、何々して给我ませんか、どうして、などの質問がある。話し手に話の糸口を与え、話し手を満足できるが応答の自由が高いだけに注意しなければならない。質問があまりにも漠然としてしまって、話し手がなにを話せばいいかわからなくなる場合もある。開かれた質問への応答の難しさを少なくし、聴き手の質問の意図を明確にするためには、開かれた質問の前に適度な挿入

することが望ましい。

#### 2、閉ざされた質問(Closed Question)

話しての応答が限定されていて、「はい」「いいえ」もしくは一語か二語で答えられるような質問を閉ざされた質問という。閉ざされた質問は、聴き手の意図に従って聴き手から情報を引き出そうとするときに用いられる。その形態としては、「……ですか?」「……しますか?」などの質問がある。話し手が応答するのは楽であるが、この種の質問を続けると受け身になり、たずねられたことしか答えなくなりがちである。その上、人間には、アンビバレンスな気持ちを持っているので（相反する二つの感情）を持っているので「はい」「いいえ」で答えさせると無理がある。しかし、もともとあまり主体的でなく、嫌々ながらきたようなクライアントに対しては、閉ざされた質問で答えやすいことをたずね、まず口を開かせることから始める方が面接を進めやすい場合もある。閉ざされた質問は、話し手にとっては答えやすく、短い答えで答えられるものであり、聴き手には必要な情報を手早く収集するのに好都合である。

### 3) はげまし、いいかえ、要約

#### 1、明確化（最小限度のはげまし、いいかえ）

- 最小限度のはげまし…クライアントの応答に対するもっとも単純な応答は、「ふんふん」「なるほど」「そうですか」などの相づちを伴ううなずきである。うなずきは、それぞれ自然なコミュニケーションのスタイルよして個人に備わっているものである。カウンセリングを行う場合には、自分のうなずき方についてよく知っておくことが必要である。うなずきは、相手の話をこちらが理解したことを伝えるものであるが、会話の方向を変えるきっかけになることもある。この技法の中には、クライアントが言った言葉をそのまま使って反復する繰り返しが含まれている。その場合の言葉は、いわゆるクライアントの話の中のキーワードとなる言葉である。キーワードによる適切な繰り返しは、カウンセラーの側が、なにを聞き取ったのかをクライアントに伝えるのに役立つ。

- いいかえ…クライアントが述べたことを単にうなずいて聴いているだけでは不十分である。カウンセラーは、なにをどのように聴き取ったのかをクライアントに言葉で伝え返さなければならない。クライアントが言った言葉をそのまま繰り返すのも一つの方法である。マイクロカウンセリングにおけるいいかえ技法は、一種の繰り返しであるが、単なる繰り返しとは異なるものである。それはいわばカウンセラーの言葉を用いた繰り返しである。いいかえ技法の難しさは、その適切さがカウンセラーの言語的表現力によるという点にある。クライアントが伝えたメッセージの中の事実内容に焦点をあて、いかに正確に聞き取っているかが問題である。

## 2. 要約

要約の主な目的は、クライアントがその思考を統合するのを援助することである。次に重要なこと面接者が歪曲という過ちを犯さなかったかをチェックすることである。要約が正確で、歪曲がなかったならばそれは、面接を探求の段階から行動へ、問題解決へもたらず助けとなる。

要約は言い換えや感情の反映とにている。しかし大きな違いはクライアントが表現した言葉の全体をカバーすることである。言い換えは、クライアントの発言の最後の二、三章または短い段落を扱う。要約は、クライアントの発言する幾つかの文節や全セッション、または何度かの面接で繰り返し表現された問題を扱う。

### 4) 感情の反映

この技法は、クライアントの話す内容や決定に、ただ関わるというのではなく、むしろ表現される感情に気づき、それに反応することが重要なのである。クライアントの言葉の情動的側面に注意し、それを的確な形で要約することである。それは、矛盾した、複雑な感情にも対応しなければならない。例えば身体と言語が別々のことを物語ることがある。この二重のメッセージと混乱した感情に注意しなくてはならない。

- 感情の分類

感情には快不快や喜怒哀楽のほか、満足感、焦燥感、絶望感など様々なものがある。それを表にまとめてみた。

	幸福	悲しみ	怒り	恐れ	混乱	強気	弱気
強度	狂喜する	絶望する	激怒する	恐れおののく	茫然自失になる	全能感を持つ	圧倒される
	有頂天になる	憂鬱になる	憤激する	恐れる	身動きがとれない	自信にあふれる	無力感
	歓喜する	がっく	憤慨する	おびえる	困惑する	活力がある	傷つきやすくなる

	る	りする	る			る	
中 度	陽気になる 上機嫌になる 気分がよい	狼狽する 悲観に くれる 残念が る	いらだ つ 欲求不 満 やきも きする	心が騒 ぐ 不安に なる 懸念す る	支離滅裂に なる 混乱する ぶざまな格 好になる	意気揚々 自信満々 得意にな る	自信喪失 孤立無援 不安定に なる
弱 度	うれし い 満ち足 りる まあま あであ る	気落ち する 気が重 い 気分が 優れな い	腹を立 てる 頭にく る 癪に障 る	臆病に なる 落ち着 かない びくび くする	迷惑に感 じる なじめない 優柔不断に なる	確信を持 つ 泰然自若 揺るがな い	動揺する ぐらつく 気力がな い

カーカフ,R.R/国分監修より（1992）より

### 3, 治療関係スケール

#### (1) 治療関係スケールとは

山本和郎、越知浩二郎（1963）は、治療者がクライアントについて持つイメージや、治療的關係で自ら体験することを新しい言葉で記述し、治療者が異なった問題を持ったクライアントに対して実際の場面でどのような態度をとるかを見出そうとした。そして、ありのままに対象を記述し、現象の場合を記述し、さらに主体性を強調しながら記述するするという基本的態度と参加的観察とに基づいて「治療関係スケール」と「生命力スケール」を構成した。

「治療関係スケール」の下次元と各8段階に尺度化された。5次元とは、クライアントの關係内の動き（CMR）、治療者の關係内の動き(TMR)、治療者の体験としての取り入れられたクライアントの経験への関わり(TCE<sub>x</sub>)、治療者の關係の仕方（MR<sub>t</sub>）、關係のあり方（R）である。

さらに1965年、治療關係の再構成を行い、クライアント、治療者、關係の3つの領域をあらかじめ区別し、各4、4、3、の合計11次元が抽出された。クライアントのスケールは、体験の仕方（CE<sub>x</sub>）、対象の構成の仕方（CMC）、開放性（COP）、治療者に対する関わり方（CMT）である。治療者のスケールとは、治療者の体験として取り入れられたクライアントの体験への関わり（TCE<sub>x</sub>）、理解の焦点のむけ方（FAU）、関心のあり方（RFC）、独自性の認め方(RCT)である。關係のスケールとは、關係のまとまりの形式(R<sub>formal</sub>)、關係の醸し出す気分(R<sub>emotional</sub>)、關係を動かすもの、關係の動き(R<sub>movement</sub>)の合計11次元である。

ここで特に今回の評価に關係ある、治療者のスケールのついて詳しく述べる。

#### 1,TCE<sub>x</sub>…Experiencing what a therapist accept his client

治療者が、クライアントの経験を共感し理解するとき、その経験はクライアントが持っている経験というよりはむしろ、治療者内部に生起するクライアントの経験として取り上げ、それに対して治療者がいかに関わるかに焦点が向けられる。

#### 2,FAC…Focussing aspect of experiencing

TCE<sub>x</sub>のプロセスの内容面を記述したもの。治療者がクライアントにどのような側面に焦点を持っているのか、相手の言葉の内容だけを理解しようとしているのか、気持ちか、さらに気持ちに直面しているクライアントの姿勢自体にも関わろうとしているのかが問われてくる。

#### 3,RFC…Regert for client

クライアントに対する関心が、条件付き、選択的なものであるか、無条件にクライアント全体に関心を寄せているかが問われている。

#### 4,RCT…Manner of relating in therapist

治療者が、どれだけクライアントの独自性を認め、自分の感じ方、自分に見える世界とクライアントのそれとは違うということを尊重しているか。

TCE x	治療者の体験としてとりいれられたクライアントの経験への関わり
1	<p>相手から伝わってくることに全く注意を向けない。相手ののべていることの意味も分からない。漠然とした形でしか感じられない。自分の中には相手から伝わってきた実感というより、相手から伝わってきた漠然としたものに対する反応としての経験でいっぱいになる。例えば、奇妙な、異常な安心できないといった反応でいっぱいとなり相手から伝わってくる相手のいわんとすることには全く目を向けられない。</p>
2	<p>相手から伝わってくることに目をむけだすが、それは言葉の一般的な意味の次元でわかろうとする。こちらの中にいろいろと実感されていることには注意を向けない。言葉の意味は相手が実感し意味していることから離れて、言葉の概念的な枠の中でしかとらえない。こちらでもっている常識的な概念的枠組みでその相手の言う言葉の意味をとらえてわかった感じになる。</p>
3	<p>相手の伝わってくる漠然とした実感を持つようになる。しかしその実感に基づいて相手のいわんとすることを理解するのではなく、こちらに持っている常識的な枠組みや、専門家的理論的枠組みにあてはめてとらえる。結果的に相手の気持ちだけをその人から切り離して、理解したり、理論的枠組みの一つの要素として理解したりする。こちらに伝わってくる実感を感じてもそれに対する吟味は全くしない。</p>
4	<p>相手から伝わってくる実感の次元で相手のことをとらえるようになるが、その場合その伝わってきた実感を吟味して、その上でとらえるのではなくこちらにあらかじめ実感できる面に対応している限り実感できるのであって、その限りでは、狭く選択的である。こちらが共鳴できるところでわかったとして安住してしまい、共鳴できないところでは無視されたり、概念的にとらえてしまう。</p>
5	<p>相手から伝わってくる実感を吟味し定着させようとする努力がでてくる。相手から伝わってくる漠然としたものを感じ、それが何か、はっきりとらえようと努力する。いままでこうだとうけとっていたものでない面があることの気づいてそれに目をむいてくるが、それを充分実感できないままである。実感しようとする努力があるが、実感できて</p>

	いないため概念的な枠組みでの捉え方がまだ残っている。
6	相手から伝わってくる実感にもとづいて相手のことをとらえようとする努力の中に定着した実感が感じられてくる。その定着した実感は乏しいが、その実感にそって相手をとらえようとする動きがでてくる。自分の表現した言葉とそこで実感していることのずれを感じ、そのずれを訂正する動きがとれる。定着した実感から時には離れてしまうが、概念的な枠の中でとらえることはほとんどなくなる。
7	相手から伝わってくる実感が自分の中で豊かに定着してくる。その実感にそった表現が時々ずれることがあり、ぴったりした表現を探す努力はまだ残っているが、ずれの修正は自由に行われる。表現と実感のずれが時々あるので相手と十分な一体感を持った動きとまで入っていない。
8	相手から伝わってくる実感が豊かに定着化され広がりを持ってくる。それと同時にその表現も自分の気持ちの表現のごとく定着した実感にぴったりしていて自由になってくる。自然な一体感を持った動きとなっている。そこには努力してとらえるという意識もなく自然で自由な動きがあるだけ。

FAU	クライアントを理解するときの焦点のむけ方
1	相手の述べていることがなにを意味しているのかははっきりとはわからない。相手を理解するにもどこに焦点を向けたらいいのかわからない。相手の姿、相手のしゃべっていることそういうことに目は向けても、それをどう処理していいのかわからない。相手の話の内容を断片的にわかる程度で、まとまった形でなにを訴えているのか、はっきりとはわからない。
2	相手の述べている話の内容に目を向ける。相手の訴える話の内容、症状の内容を相手から切り離れた形でとらえる。話題の中での筋道や、因果的なつながりに理解の焦点がしぼられる。相手の気持ちの面にはふれることはしない。

3	<p>相手の述べている内容にとらえようとすると同時に、そこにでている気持ちの面にも焦点が向けられる。しかしその気持ちは、相手を実感していることとして、とらえるのではなく、相手から切り離された形で、ある枠組みの中であてはめてとらえたり理解したりしている。こちらでその気持ちを実感して受け取ったものでなく、内容と気持ちを概念的な枠組みの中で置き換えてとらえる。</p>
4	<p>相手の述べていることの内容と気持ちに焦点が向けられているが、特に気持ちの面に部分的に実感し共鳴したりする。しかし気持ちが実感できるようになっても、相手の気持ちとしてわかるというのではなく、自分の気持ちと共通しているということでよくわかるので、ここでは相手の気持ちとしてとらえることができない。自分の気持ちに共通していない面は実感できないため、概念的な枠組みの中で置き換えてわかろうとする。</p>
5	<p>相手の伝えていることの内容面よりも、気持ちの面に焦点が向けられる。それと同時にその気持ちを相手の感じている気持ちとしてとらえようとする努力がでてくる。相手が自分の問題に対しどう取り組んでいくかに関心が向けられるが、そのことが大切だとわかってきたところで、実感のレベルでとらえるまでにはほとんど達してない。焦点がそこにあっても、とらえたものは相手から離れた概念的なものになっている。</p>
6	<p>相手の伝えていることから相手が自己の直面している問題にどういう気持ちを抱き、どのように取り組もうとしているかという点に深い関心が寄せられ、相手そのものの動きとしてとらえることができてくる。しかし、まだ相手の一瞬一瞬移り変わる動きそのものをぴったりとらえることができるところまでいっていない。相手の動きを相手から離れたところでとらえがちなところが残っている。</p>
7	<p>相手の伝えることから、相手の取り組み方そのものに充分深い関心が向けられ、相手の動きの一瞬一瞬移り変わる動きそのものをぴったりとらえることができるようになる。しかしまだ相手の取り組み方としてとらえるという捉え方で、相手と十分な一体感を持ったとらえ方に達していない。</p>
8	<p>相手の取り組み方、そのものに充分深い関心が向けられ、相手の動き一瞬一瞬新しい動きとして豊かにとらえながらさらにそこには相手のものとしてという意識はほとんどなく、充分な一体感をともなう</p>

けとれている。

RFC	クライアントに対する関心のあり方
1	相手に対して聞こうとする態度はあるが、それは全く表面的なことで、内心では相手そのものに様々に反応しており、特にそのまま聞くことに耐えられないほどの否定反応がでてしまっている。相手そのものに対し関心をよせることは、全くできないでいる。
2	相手に対して一応聞く態度はある。しかし相手を問題を持っている人、異常な人、悩みのある人として聞いているので、相手の提出する問題、症状についてその人と切り離して聞いている。その人のその問題への気持ちの持ち方、取り組み方となるとなぜそういう気持ちになるのか、相手から離れてこちらで感情的に反撥したくなる。どうにかしてはならない人としてControlしたくなりいららする。
3	相手に対して一応聞く態度がある。しかしそれはこちらの持っている枠組みにあわせて相手をとらえようとする態度で、相手の問題やその問題への取り組み方をこちらの枠組みの中で解釈し、ある方向へ向かっていくことを肯定したり、否定したりする。相手そのものの方向をそのまま認めることはしないで、こちらがControlする意識が強い。相手がControlに従わないと否定的な感情がでてくる。
4	相手に対して意識的にある枠組みでとらえようとする態度はほとんどないが、自分で意識しない枠があり、相手のとらえ方はこちらで実感できる面しかとらえられず、相手そのものの姿としてとらえることができない。こちらが実感できる範囲内で相手をこうだと分かった感じを持ち、その相手が肯定できれば安心し、肯定できないと不安になり、頼りない人と感ずる、こちらの受け取り方にそった方向に相手が向かうことを期待する。ときにはControlする意識もでてくる。
5	相手の取り組み方そのものを聞こうとする努力がでてくる。しかし、相手の姿が何かあるのだと頭では認められても、現実には部分的にしか伝わってこない。否定感情はほとんどないが、受け取れない感じられない面が全面にでて、それにふれられないもどかしさが伴う。聞こうとする面が全面にでて、それにこだわることで、相手を充分肯定で

	きないで、相手の動きを限定し、束縛してしまうことがある。
6	相手の取り組み方、動きそのものをそのまま認めることができるようになる。相手の姿そのものにその人らしさというものをすこしづつ感じられてくるが、まだ充分でなく、どこかこちらの受け取り方の偏りや、やや概念的な受け取り方で、相手を限定する傾向が残っている。しかしその人らしさをそれとしておいておける段階になっている。
7	相手の取り組み方、動きそのものをより深く認めることができてくる。その人らしさの中に広がりを持った実感を感じだしてきて、その人らしさがそのまま伝わってくる。相手を限定する傾向はわずかしか残っていない。しかしその人らしさとしておいておく傾向があり、より深く一体感を持つまでにいたっていない。
8	その人らしさがより大きな豊かな広がりを持ち生き生きとした実感として響いてきて、その人のあり方がより深いところまで伝わってきて、それを十分に認められるようになる。そこには相手の前にしているという意識もなく、相手そのものにほとんど一体感を持って素直に対せている。

RCT	クライアントとの関係の持ち方
1	相手の存在、内的世界がそこにあることは全く無視されているかまたはそれがあつことに気づいてない。相手はただこちらが反撥し、反応する対象でしかなく、ふれあうことは全くできない。
2	相手の存在、内的世界があることがそこにあることはほとんど無視されている。相手から提供される問題、訴えの内容を相手から切り離れたところで問題にし、相手の内的世界にふれることはしない。こちらはこちらで自分の存在を話を聞く役割に限定して相手と面している。その意味で全く相手の存在とは離れた関係を保ち遠ざかっている。
3	相手の存在、内的世界があることを考慮しだすが、実感する段階にいたっていない。相手の存在を相手の存在を独自の存在としてとらえるこ

	とはできないで、むしろ一般的な枠組みの中で置き換え、その枠組みの中で相手にふれようとする。その意味で相手の存在を距離を置いて冷静に眺められる立場に立つことで相手との関係を持つようとする。
4	相手の存在、内的世界を実感しだすが、それは一部であり、しかもその実感は相手のものとしてでなく自己の内的世界の体験とごっちゃになっている。相手を独自の存在としてみることはできず、こちらの内的世界と類似しているか相違しているかという相対的な対象としてしか、限定された一部の相手にしかふれられていない。あいての内的世界の一部に近づくが、他の面では離れている。
5	相手の存在、内的世界が実感されてはいるが、その実感された相手の内的世界がその人独自のものらしいというのがわかってきても、それが実感できないままている。その独自性がわからず、相手が遠くへいるような感じを持つときがあり、それに触れようと努力して結果的には4の段階の関係を持ったりする。また独自性の漠然とした感じはこちらを不安にさせ、自己と他者の分離を十分に実感できないままている。
6	相手の独自の存在、内的世界があるのだということが実感されだす。相手の独自の世界内のこととして、自己と切り離してとらえることができる。しかし相手の独立な世界が自分とは切り離されたような感じがして、不安が潜んでくる。相手の独自の世界としてとらえていても、それに近づいたり、働きかけたりする時、相手の独自の世界が見えなくなる。
7	相手の独自の存在、内的世界がそのまま自己と独立していることに十分に認めることができる。自己と他者の分離ははっきりしていて、ごっちゃになったり、独自性が見えなくなるようなことはない。しかし相手の世界と自己の世界が充分には実感できないままている。
8	相手の独自の世界をそこにそのまま自己と独立した存在として認めるだけでなく、自己の世界と相手の世界とのつながりが充分に実感されてくる。相手と自己の独自の世界がそこに一体感をもって深いつながりを持った存在として、深く実感される。

## (2) 治療関係スケールの適用

治療関係スケールの適用の仕方として大きく3つに分けられる。もちろんその3つは相互に関係しあうものである。第一に心理療法の治療効果を測定する目的に用いる仕方であり、クライアントの変化だけでなく、治療者及び治療関係そのものの変化をとらえる治療関係診断の道具として用いる方法である。第二にセラピスト自身の訓練のために、治療者が現実にどの段階にいるのかをチェックするために用いる仕方でありスーパーヴィジョンに利用する方法である。第三に治療面接過程の研究の中で、面接テープの分析の一つの道具として用いられる方法である。

スーパーヴィジョン…カウンセリングに携わっている人が自分が相談を受けているクライアントについてそのクライアントとの関係について、多くは自分より経験を積んでいるカウンセラーに相談し、指導を受ける関係である。

## 第2章 実験と手続き

本研究は、昨年度立木ゼミ卒業生の引き継ぎであり、ビデオ観察法を用いたものである。対象としたのは、神戸市社会福祉協議会・市民福祉大学において1998年4月11日から3ヶ月の夏休みをはさんで12月5日まで週一回（土曜日）にヒューマンサービスコース初級・中級が開講されました。この講座において、コミュニケーション・ラボという面接場面をビデオに録画し、検証していくものを最初の日（4月25日）と最後の日（10月31日）に撮りました。このビデオをもとに両日参加した23人について治療関係スケールのセラピストのストランドを用いて臨床評価を行った。評価を行ったのは、西尾武文・渡辺麻子（関西学院大学社会学部立木ゼミ4回生）の2名です。この2人は、ヒューマンサービスコースには参加していません。

### 【1】 被験者

被験者は、ヒューマンサービスコース初級受講者11名（男2名・女9名）と中級受講者（男1名・女11名）の両日に参加された方です。年齢は、20代前半から70代後半まで幅広く、職業も主婦・大学生・会社員・パートと様々でしたが、40代主婦が中心層でした。

### 【2】 ビデオ録画手順

録画は、3人1組となり聞き手・話し手・録画係りとそれぞれが役割を持って遂行する。1人あたり約5分ずつで、3人それぞれがすべての役割が回るようする。また、コミュニケーションラボを使用したときの両日（最初の日と最後の日）は、原則として同じグループで同じ役割をしたうえで、聞き手と話し手の面接を録画するようにした。

やり方としては、聞き手と話し手が向かい合って座り、その2人を同時に見える位置に録画係りが座る。使用カメラは2台で、聞き手・話し手をそれぞれ上半身（頭から膝まで）が画面に映るようにセットして撮る。（手や足の動きがわかるようにするため）モニター画面は2等分割になるようにし、2人が向かい合って見えるようにする。（現実の場面と同じように画面に映すため）

面接場面での話す内容としては、初日は「最近面白かったことや楽しかったこと」についての話しを中心にし、最後の日は「身の回りでおきた話し」についてを中心に話していただきました。初級・中級受講者は共に強制的ではなく、会話の流れに任せるように講師からも付け加えられています。なお、本研究にコミュニケーションラボが使用されることについて了解も取って行いました。

### 【3】 測定方法

評価及び測定は次の手順で行われた。

- 1、 昨年のビデオを見て練習する。これは、観察者2人の一致度を高めるために行う。
- 2、 各自でビデオを見て、聞き手役の話した言葉（セリフ）を記録していく。これは、以後、評価する際はこの用紙を見ながら行う。
- 3、 ビデオをの内容とデータをもとに、治療関係スケールのセラピストのストランドを用いて各自で測定していく。
- 4、 2人でビデオを見ながら、各自の評価を照らし合わせる。
- 5、 測定結果の点数に至った要因を指摘しあう。
- 6、 議論し合い、最終的な点数を決める。

### 【4】 質問紙

質問紙は、他者への共感が技法として上達する際に、聞き手の内面の部分にも変化があるのではないかと考えからジョハリの窓を参考に作成したものです。特に、他者への共感度が増す度に、自己受容度も大きくなるのではないかという仮説を打ち出した。このことから、自己受容測定尺度（石原・佐倉・高木・富岡・西原・長谷川・1997）、コンピテンス尺度（栗本・1997）、自意識尺度・日本語版（菅原・1984）を用いて、自己発見尺度を作成した。

## 第4章 結果と考察

### 1, 評価結果

#### 1.ビデオ観察の結果

ここでは、西尾,渡辺がビデオを見て評価した結果を表にまとめたものである。nが西尾、wが渡辺の略であり、◎が二人の話し合いの結果、一致した点数である。なお順番は、ビデオに収録されている順番である。

No.1

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w◎				
FAU			n w◎					
RFC				n w◎				
RCT				n w◎				

No.2

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w◎						
FAU		n w◎						
RFC	w	n◎						
RCT	n w◎							

No.3

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n	w ⊙				

No.4

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.5

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			w ⊙	n				
RCT				n w ⊙				

No.6

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC		n	w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No.7

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC		n w ⊙						
RCT		n w ⊙						

No.8

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						

RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.9

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.10

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No,11

	1	2	3	4	5	6	7	8
--	---	---	---	---	---	---	---	---

TCE x		w	n⊙					
FAU		n w⊙						
RFC			n w⊙					
RCT			n w⊙					

No.12

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w⊙						
FAU		n w⊙						
RFC			n w⊙					
RCT		n w⊙						

No.13

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w⊙				
FAU			n w⊙					
RFC			n w⊙					
RCT				n w⊙				

No.14

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n	w ⊙				
RFC			n w ⊙					
RCT				n w ⊙				

No.15

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			w	n ⊙				
RCT			n w ⊙					

No.16

	1	2	3	4	5	6	7	8
--	---	---	---	---	---	---	---	---

TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.17

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC		n	w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No.18

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w ⊙				
FAU				n w ⊙				
RFC			w ⊙	n				
RCT				n w ⊙				

No.19

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No.20

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.21

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					

RCT			n w ⊙					
-----	--	--	-------	--	--	--	--	--

No.22

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			w	n ⊙				

No.23

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n	w ⊙					
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No.24

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w ⊙				

FAU				n w⊙				
RFC			n w⊙					
RCT			w⊙	n				

No.25

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				w⊙	n			
FAU				n w⊙				
RFC				n w⊙				
RCT					n w⊙			

No.26

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w⊙						
FAU		n w⊙						
RFC		n w⊙						
RCT	w⊙	n						

No.27

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.28

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU		w ⊙	n					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.29

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.30

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w ⊙				
FAU				n w ⊙				
RFC			n w ⊙					
RCT				n w ⊙				

No.31

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n	w ⊙				
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT				n w ⊙				

No.32

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU		n w ⊙						

RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.33

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		w ⊙	n					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.34

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.35

	1	2	3	4	5	6	7	8
--	---	---	---	---	---	---	---	---

TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.36

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC		n	w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.37

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w ⊙				
FAU				n w ⊙				
RFC			n w ⊙					
RCT				n w ⊙				

No.38

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT		n	w ⊙					

No.39

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No.40

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w ⊙				
FAU					n w ⊙			
RFC				n ⊙	w			

RCT				n w ⊙				
-----	--	--	--	-------	--	--	--	--

No.41

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w ⊙				
FAU				n w ⊙				
RFC				n w ⊙				
RCT				n w ⊙				

No.42

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x				n w ⊙				
FAU				n w ⊙				
RFC			n w ⊙					
RCT			n ⊙	w				

No.43

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						

FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No.44

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

No.45

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x		n w ⊙						
FAU		n w ⊙						
RFC			n w ⊙					
RCT		n w ⊙						

No.46

	1	2	3	4	5	6	7	8
TCE x			n w ⊙					
FAU			n w ⊙					
RFC			n w ⊙					
RCT			n w ⊙					

## 2.ID別に見る評価結果

### (1) 最終的な結果の表

ID	Pre-TCE	pre-FAU	pre-RFC	pre-RCT	post-TCE	post-FAU	post-RFC	post-RCT	preの 平均値	postの 平均値
1	2	2	3	2	4	4	3	4	2.25	3.75
2	4	4	3	4	3	3	3	3	3.75	3
3	2	2	3	2	4	4	3	3	2.25	3.5
4	2	2	2	1	2	2	2	1	1.75	1.75
5	3	3	3	3	4	4	4	4	3	4
6	3	4	3	4	4	4	3	3	3.5	3.5
7	2	2	3	2	2	2	3	2	2.25	2.25
8	3	2	3	3	3	3	3	3	2.75	3
9	3	2	3	3	3	2	3	3	2.75	2.75
10	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3.25
11	2	2	3	2	3	3	3	3	2.25	3
12	2	2	3	3	2	2	3	2	2.5	2.25
13	2	2	3	2	2	3	3	3	2.25	2.75
14	3	3	3	4	3	2	3	3	3.25	2.75
15	3	2	3	2	3	3	3	3	2.5	3



8	3	2	3	3	3	3	3	3	2.75	3
9	3	2	3	3	3	2	3	2	2.75	2.5
10	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3.25
11	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3
12	2	2	3	3	2	2	3	2	2.5	2.25
13	2	2	3	2	3	3	3	3	2.25	3
14	3	3	4	4	3	2	3	3	3.5	2.75
15	2	2	3	2	3	3	3	3	2.25	3
16	3	3	3	3	2	2	3	3	3	2.5
17	4	3	4	4	5	4	4	5	3.75	4.5
18	3	3	3	4	4	4	4	4	3.25	4
19	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3.25
20	2	2	2	3	3	3	3	3	2.25	3
21	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3
22	4	3	3	4	2	2	3	2	3.5	2.25
23	2	3	3	3	4	5	4	4	2.75	4.25

(3) W (渡辺) の表

ID	pre-TCE	pre-FAU	pre-RFC	pre-RCT	post-TCE	post-FAU	post-RFC	post-RCT	pre-の 平均値	Postの 平均値
1	2	2	3	2	4	4	3	4	2.25	3.75
2	4	4	3	4	3	3	3	4	3.75	3.25
3	2	2	3	2	4	4	3	3	2.25	3.5
4	2	2	2	1	2	2	1	1	1.75	1.5
5	3	3	3	3	4	4	4	4	3	4
6	3	4	3	4	4	4	3	4	3.5	3.75
7	2	2	3	2	2	2	3	2	2.25	2.25
8	2	2	3	3	3	3	3	3	2.5	3
9	3	2	3	3	3	2	3	3	2.75	2.75
10	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
11	2	2	3	2	3	3	3	3	2.25	3
12	2	2	3	3	2	2	3	2	2.5	2.25
13	2	2	3	2	2	3	3	3	2.25	2.75
14	3	3	3	4	3	2	3	3	3.25	2.75
15	3	2	3	2	3	3	3	3	2.5	3
16	3	3	3	3	2	2	3	3	3	2.5
17	4	3	4	4	4	4	4	5	3.75	4.25

18	4	3	3	4	4	4	3	4	3.5	3.75
19	3	2	3	3	3	3	3	3	2.75	3
20	2	2	3	3	3	3	3	3	2.5	3
21	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3
22	4	3	3	4	2	2	3	2	3.5	2.25
23	2	3	3	3	4	5	5	4	2.75	4.5

## 2, 評価結果の考察

各実験の評価結果により得られ t テストの結果をここで報告する。pre はセミナー前、post はセミナー後、トータルは TCE・FAU・RFC・RCT の集計のこととする。それぞれ初級・中級と分けます。

### トータル (TCE・FAU・RFC・RCT) の結果

(初級)

	Mean		Minimum	Maximum
PRE	12.090909		8.000000	12.000000
POST	12.555555		9.000000	14.000000

(中級)

	Mean		Minimum	Maximum
PRE	10.538462		8.000000	11.000000
POST	12.000000		7.000000	12.000000

### 《PRE と POST の変化》

(初級)

Mean	Std error	t	t
0.464646	0.8721560	12.3124863	0.0001

(中級)

Mean	Std error	t	t
1.461538	0.7221351	12.1682787	0.0001

T C E (治療者の体験として取り入れられたクライアントの経験へのかかわり)

(初級)

	Mean	Stv Dev	Minimum	Maximum
PRE	3.090909	0.831209	2.000000	4.000000
POST	3.000000	0.707107	2.000000	4.000000

(中級)

	Mean	Stv Devr	Minimum	Maximum
PRE	2.538462	0.660225	3.000000	4.000000
POST	3.000000	0.816497	2.000000	4.000000

《PREとPOSTの変化》

(初級)

Mean	Std error	t	t
-0.090909	0.26879658	2.97953778	0.0001

(中級)

Mean	Std error	t	t
------	-----------	---	---

0.461538	0.22238476	3.01416615	0.0001
----------	------------	------------	--------

F A U (クライアントを理解するときの焦点の向け方)

(初級)

	Mean	Std Dev	Minimum	Maximum
PRE	2.727273	0.64667	2.000000	4.000000
POST	3.000000	1.000000	2.000000	5.000000

(中級)

	Mean	Std Dev	Minimum	Maximum
PRE	2.461538	0.77625	2.000000	4.000000
POST	3.000000	0.816497	2.000000	4.000000

《PREとPOSTの変化》

(初級)

Mean	Std error	t	t
0.272726	0.29708269	2.98236890	0.0001

(中級)

Mean	Std error	t	t
0.538461	0.24707629	3.01220615	0.0001

## RFC（クライアントに対する関心のあり方

—

(初級)

	Mean	Std Dev	Minimum	Maximum
PRE	3.000000	0.447214	2.000000	4.000000
POST	3.222222	0.440959	3.000000	4.000000

(中級)

	Mean	Std Dev	Minimum	Maximum
PRE	2.923077	0.27735	2.000000	3.000000
POST	3.076923	0.493548	2.000000	4.000000

## 《PREとPOSTの変化》

(初級)

Mean	Std error	t	t
0.222222	0.13293860	3.18992557	0.0001

(中級)

Mean	Std error	t	t
0.153846	0.11050398	3.09928230	0.0001

RCT (クライアントとの関係の持ち方)

(初級)

	Mean	Std Dev	Minimum	Maximum
PRE	3.272727	0.786245	2.000000	4.000000
POST	3.333333	0.866025	2.000000	5.000000

(中級)

	Mean	Std Dev	Minimum	Maximum
PRE	2.615385	0.869718	1.000000	4.000000
POST	2.923077	0.862316	1.000000	4.000000

《PREとPOSTの変化》

(初級)

Mean	Std error	t	t
0.060606	0.28242962	3.22254367	0.0001

(中級)

Mean	Std error	t	t
------	-----------	---	---

0.307692	0.23309354	2.99977746	0.0001
----------	------------	------------	--------

以上の表を参照に、平均値を見ると初級はPRE（セミナー前）が12.090909点。POST（セミナー後）が12.555555点であり、その差は0.464646点となった。また、中級はPREは10.538462点でPOSTは、12点となり、その差は1.461538点とどちらもPOSTが高いという結果がでた。

さらに細かく平均値を見ていくと初級は

PRE-TCEは3.090909点で、POST-TCEは3点であり、その差は-0.90909点。

PRE-FAUは2.727273点で、POST-FAUは3点であり、その差は0.272726点。

PRE-RFCは3点で、POST-RFCは3.222222点であり、その差は0.222222点。

PRE-RCTは3.272727点で、POST-RCTは3.333333点であり、その差は0.060606点。

また、中級は

PRE-TCEは2.538462点で、POST-TCEは3点であり、その差は0.461538点。

PRE-FAUは2.461538点で、POST-FAUは3点であり、その差は0.538461点。

PRE-RFCは2.923077点で、POST-RFCは3.076923点であり、その差は0.153846点。

PRE-RCTは2.615385点で、POST-RCTは2.923077点であり、その差は0.307692点。

という結果が出た。初級のTCEはPREが高かったものの全体的にはPOSTが高いという結果がでた。また、上記の表より、どの結果を見ても  $t > |t|$  という結果となっている。

つまり、それぞれの尺度（TCE,FAU,RFC,RCT）のPRE（セミナー前）とPOST（セミナー後）のデータ間には相関があるということになる。これにより、データの有意性が証明されたことになる。つまり、セミナー（コミュニケーションラボを使用したマイクロカウンセリング方式の援助機能の訓練）によって共感についての技法が上達したと証明できる。

初級においては、特に差が見られたのはFAUとRFCであり、これについて記述していく。まずFAUは聞き手が話し手のどのような側面に焦点を持っているか、話し手の言葉の内容だけを理解しようとしているか、気持ちにだるか。さらに、気持ちに直面している話し手の姿勢自体に関わろうとしているか、ということであるが、セミナーで、ビデオで自分自身の姿や質問の仕方などを振り返って、学習しやすかったと思われる。

RFCは聞き手が話し手に対してどのように関心があるか、条件つき、選択的なものであるか、無条件にクライアントの全体に関心を寄せているかどうかを問題とするものであり、初級で

あったためあまり相手になれていないことが大きな差を生んだと思われる。

中級は、TCEとFAUが特に大きな差を見せた。FAUは上記と同じであるがTCEは、話し手に対しての体験へのかかわりであるが、この項目が大きな差を生んだのは中級になり話し手に対しての気持ちの面にまで入って行けるようになったためであろう。

## (2) ビデオ評定について

今回のビデオ評定には、昨年行われた研究についての疑問や失敗を証明したり、克服するといったことから前回とは違う状況での評定を行った。我々は、セミナーに参加せず、評価基準となるビデオも渡されたときには、すでにPRE（セミナー前）かPOST（セミナー後）すらわからないようにランダムの状態であった。これは、セミナーに参加することでそこにいる人に対しての感情や性格などの予備知識が入ってしまうことをさけるためです。また、ビデオに対してはPREとPOSTが解ってしまっはどうしてもPREよりもPOSTの方が上がった評価をしてしまうかもしれないという疑問を解消するためでもある。話す内容にしても初級・中級・PRE・POSTがわからないように同じようなテーマの質問を全てしている。

評価する際には、本年度のセミナービデオを見る前に昨年度のビデオや参考ビデオ等でお互いが一致した評価ができるように練習をしたことと身振り・手振り・発言などに気をくばり、お互いの意見が一致するまで話し合いをしたことが今回の結果につながったと思います。

### 第3章 評価の要点

本章では、去年のデータをもとにして、Ⅰ. アイビーの階層表の中の基本的かかわり技法である4つの評価基準をまとめる。

#### (1) 非言語コミュニケーション（かかわり行動）

①ジェスチャーや体の動き	
姿勢	自然でリラックスしている、聞いていることがわかるように …腰の位置、（腰が低い、腰が引けている、腰抜け）、背骨の状態（猫背、斜めに構える、前かがみ、ふんぞり返る）
動作	からだ全体の動き、たちふるまい…動き全体に対する印象（きびきび、ゆったり）
うなずき	話し手にあっているか、…表情、まなざし
ジェスチャー	話し手にあっているか、…話に軽くうなづく、髪に手をやる、笑うときに口に手をやる
顔の表情	的確であるか（ポーカーフェイス、無表情）
視線	相手を見て微笑み視線を保つ、相手を理解しようとする態度を示す、その内容に応じた視線を合わせる <ul style="list-style-type: none"><li>• 方向（上目づかい、目をそらす、直視する、流し目、目を落とす、目を配る）</li><li>• 強弱（射るような視線、穏やかな視線、ぼんやりと焦点にあわない目、目をかける）</li><li>• 関わりについて（目が合う、白い目で見ると、目がない、睨みつける、目をかける）</li></ul>
②音質、言語外の音声（笑い声、あくびなど）	
声の調子	暖かみの帯びた低い声でゆっくりと、その時の感情にそって変

	<p>化する</p> <p>…声の大きさ（自信なく臆病になると小さくなる）</p> <p>…高さ（緊張で高くなる傾向）、話す速度（興奮すると早口）、明瞭さ（声の大小に左右）</p> <p>…話の間の取り方、発音するときに息を吐き出して話すか、息を吸いこみながらまたは、止めて話すか</p>
③その場の空間について	
距離の取り方	興味のあるように…座る位置（前の方に座る、目立たないように）
④香りや臭覚作用に関するもの	
⑤皮膚による触感や温度に関するもの	
生理的表出	自然であるように…赤らむ、瞼がぴくぴく動く、目が潤む、こめかみの血管が浮き出る、がたがた震える、呼吸（どこで行っているか、速さ、深さ）、どんな汗をかいているか（冷や汗、脂汗）
⑥着飾りや化粧による自己表現で伝えること	

## （2）質問法

### 1. 開かれた質問

- 面接を始めるとき
- クライアントに更に詳しく述べてもらうとき
- クライアントの具体的な行動の事例を引き出すとき
- どうして、なぜ？という質問を多用しすぎない→クライアントを防衛的にする

### 1. 閉ざされた質問

- 相手が「はい」「いいえ」で答えられるや一語や二語で答えられることを尋ねられるとき

### 1. 質問の使い方

- 閉じられた質問よりも開かれた質問を多用する

→クライアントは自分のペースではなすことが出来る

- 同時に複数の質問を連発しない

## (3) 明確化（最小限度の励ましと言い換え）

### 1. 瞬時的な発声

- 「ええ？」 「そう？」 「それで？」 「それから？」
- 一語または二語の繰り返し
- 「もっと続けて下さい」
- 「うむむ…」 「うん」 「はい」
- クライアントが述べた文章の最後の数語をそっくり返す

### 1. 沈黙（隠れた応答時間）の利用

- 応答を始めるときに聞き手が数秒間待つこと→なるべく話し手に話させる

## 1. 言い換え

- クライアントの名前および代名詞としての「きみ」「あなた」
- クライアントの最も重要な語句
- クライアントの言及した言葉の本質を捉えて、凝縮し明確にしたカウンセラーの発言（話し手の言いたいことをキャッチしてそのポイントを繰り返す）…要約

## 1. 意識の面積を拡大する

- うまく意識化、言語化できないクライアントの状況や心境を的確に察知
- 解釈、指示、歪曲に陥らない

## (4) 感情の反映

- 感情は大切であると言う認識から出た言葉を展開する（肯定的情動に持ち込むこと）

→「あなたは…と感じているようだが」、「あなたは…と感じているように聞こえますが」

- 感情を指摘し、混乱したり、矛盾している感情に特に注意する。二重のメッセージに注意するが身体と言語の不一致に反映しないように
- 言い換えを加えてないように触れる

## 全体の反省と課題

我々は、約半年間この研究を進めてきたわけだが、やはり研究を比較、測定する際に準備が足りなかったことを痛感する。主にマイクロカウンセリングについて、約一ヶ月間の詰め込み型で学んだあと測定してきた。昨年と違いヒューマンサービスコースを受講していないために知識不足であったことでかなり難航する場面もあった。本格的に研究に取り組んだのが12月であり、ビデオを見るという作業が一番神経を使い、またデータも多かったので精神的につらい部分があった。焦りと不安で正確な数値が取れたか、少し疑問に残る。

これからの課題として、半年間なり、一年間の準備期間をおいて測定してもらうことを期待する。

今回協力をいただいた。川島先生、立木先生、市民福祉大学のみなさんには深く感謝いたします。

参考文献

- 栗本かおり (1997) [『関西学院大学社会学部紀要』, 青年のコンピテンス尺度](#) 関西学院大学社会学部研究会  
p145
- 内山喜久雄・高野清純・田畑治 (1963) [『講座サイコセラピー』 p130](#)
- 玉瀬耕治 (1982) [『カウンセリング技法入門』 p30, 34, 37](#)
- 澤田瑞也 (1982) [『カウンセリングと共感』 p1, 59](#)
- 長井進 (1997) [『カウンセリング概念』 ナカニシヤ p99](#)
- 岩原信九郎 (1957) [『教育と心理のための推計学』 日本文化科学社 p194・192](#)
- 國分康孝 (1979) [『カウンセリングの技法』 誠信書房 p3・25・51・146](#)
- 久能徹・末武康治 (1997) [『INTERPRETATION OF CARLROGERS』 岩崎学術出版社 p182](#)
- 山本和郎・越智浩二郎 (1965) 治療関係スケールの再構成とその検討『臨床心理』4(4)200-224